精神神経学雑誌　第114巻第3号（2012）　329-330頁

新井論文（本誌113巻6号）を読んで
──「若年性」認知症という用語について──

柏 瀬　宏 隆

<索引用語：若年性認知症，若年性アルツハイマー病，早発性認知症，早発性アルツハイマー病>

<**Key words**：juvenile dementia, juvenile Alzheimer's disease, early-onset dementia, early-onset Alzheimer's disease>

「若年性」認知症という用語

新井氏と私とは最近，「精神医学」誌で「若年性」認知症という学術用語について手紙（Letter to the Editor）を交わし討論を重ねてきた[1,2,6,7]．その後も氏は，本誌113巻6号に，表題に「若年性認知症」という用語を掲げた論文[3]を日本老年精神医学会の立場から載せている．討論における私の真意が氏に全く伝わっていないようなので，ここに同論文を取り上げたい．

同論文[3]の見出し「はじめに」と「1．医学用語の観点から」の中で（同一頁の中で），氏は「1999年に若年性AD（younger patients with Alzheimer's disease：YPAD）専門外来を開設した」旨を，二度も繰り返し述べている．

そして，次のように言う（562頁[3]）．

> この場合の「若年」をjuvenileと訳すると18歳から64歳までが該当することになる．しかしこの年齢区分では，学問的・制度的に高次脳機能障害と重複する部分があり，介護保険制度からは初老期発症の認知症は40歳以降であることも考慮すると，40歳から64歳までを該当する年齢区分とすることが望ましいと判断する．そのために，英語訳はjuvenileではなく，YPADが適切であると考える．

この文章の，まず前段の「juvenileと訳すると18歳から64歳までが該当する」というのは，見出しの「医学用語の観点から」言って全くの誤謬である．juvenileとはもっと若く20歳前後以前を指しており，精神科以外の他科医学領域では，たとえば最近話題になっているjuvenile idiopathic arthritis（若年性特発性関節炎）とは16歳未満の子どもの病気なのである．

55～59歳と60～64歳に発生数が圧倒的に多い病い[4]をjuvenile（＝若年性）と呼ぶことは，医学用語の観点から言って誤りである．これでは他科医学領域の用法とも整合性が取れない．ちなみに，神経学用語集（改訂第3版）[8]の中には，若年性認知症およびjuvenile dementiaという用語も若年性アルツハイマー病およびjuvenile Alzheimer's diseaseという用語も存在していない．誠に慧眼である．

次に，中段の「……，40歳から64歳までを該当する年齢区分とすることが望ましい」とする氏の判断は，これでは「若年性」ではなくむしろ「初老期」（presenile）に該当する年齢区分になってしまう．

そして，後段の「英語訳はjuvenileではなく，YPADが適切であると考える」について，無論juvenileは問題外であるがYPADが適切であるとは私には考えられない．氏[1]は私への「手紙」で，「『若年性』の英語訳としては，2002年の国際会議（Hamburg）でyounger patients with Alzheimer's diseaseと冠したシンポジウムもあったが，この表記が最適であると思う」と述べている．氏は，YPAD（ワイパッドと読ませるつ

著者所属：松見病院
e-mail：kashiwase@matsumi.or.jp
受 理 日：2011年12月3日

もりであろう）をまるで公認された略語であるかのように用いるが，実は，国際会議にあったシンポジウム名の氏の手になる略語なのである．

ところで，younger patients があるならば older patients もあるはずである．これらをどこで区別するのか．younger patients とは，18 歳から 64 歳までが該当するのではなく，いわんや氏の言うような 40 歳から 64 歳までが該当するような患者の年齢区分でもあるまい．私が推測するのに，65 歳未満全体のアルツハイマー病患者を指しているのではなかろうか．なぜならば，ICD-10[11] にしても DSM-IV[10] にしても，アルツハイマー病に対して early-onset と late-onset の二分法が取り上げられており，65 歳前後で区分されているからである．

最近の英文の老年精神医学専門誌[9] に young onset という表現が認められるが，これも 65 歳未満の総称であり，early-onset と同義語である．本誌に最近掲載された論文[5] でも，「若年性」認知症は 65 歳未満を指しており，また日本のマスコミも「若年性」認知症を 65 歳未満の総称として扱っているのである．

文　献

1）新井平伊：精神医学への手紙.「若年性」という用語について―柏瀬による「精神医学への手紙」（本誌 52 巻 7 号）を読んで．精神医学，52；1229, 2010

2）新井平伊：精神医学への手紙.「若年性」に関する柏瀬先生のご質問に答えて．精神医学，53；509, 2011

3）新井平伊：若年性認知症の臨床的諸問題―日本老年精神医学会から―．精神経誌，113；562-567, 2011

4）朝田　隆：厚生労働省科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）総合研究報告書「若年性認知症の実態と対応の基盤整備に関する研究」．厚生労働省発表，2009

5）柏木一恵：若年性認知症者への支援を通じて精神科医との協動を考える．精神経誌，113；296-300, 2011

6）柏瀬宏隆：精神医学への手紙.「若年性」という用語―若年性認知症をめぐる特集（本誌 51 巻 10 号）を読んで．精神医学，52；696, 2010

7）柏瀬宏隆：精神医学への手紙.「若年性」という用語について―新井氏の「精神医学への手紙」（本誌 52 巻 12 号）へのお手紙．精神医学，53；508, 2011

8）日本神経学会用語委員会編：神経学用語集，改訂第 3 版．文光堂，東京，2008

9）Svanberg, E., Spector, A., Stott, J.: The impact of young onset dementia on the family: a literature review. International Psychogeriatrics, 23; 356-371, 2011

10）高橋三郎，大野　裕，染矢俊彦訳：DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引，新訂版．医学書院，東京，2003

11）融　道男，中根允文，小見山実ほか監訳：ICD-10　精神および行動の障害　新訂版―臨床記述と診断ガイドライン―．医学書院，東京，2007